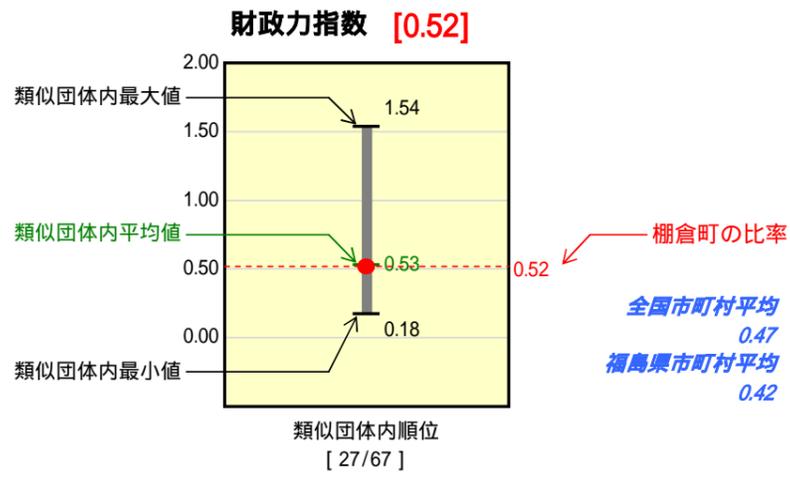


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

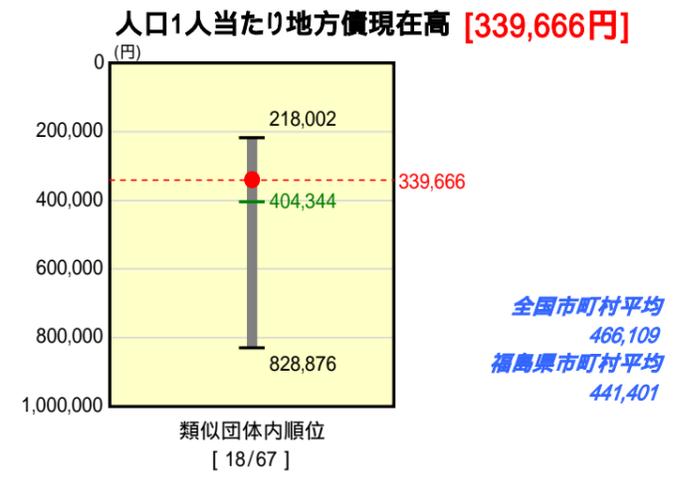
福島県 棚倉町

人口	16,001人(H17.3.31現在)
面積	159.82 km ²
歳入総額	5,955,182千円
歳出総額	5,711,957千円
実質収支	243,225千円

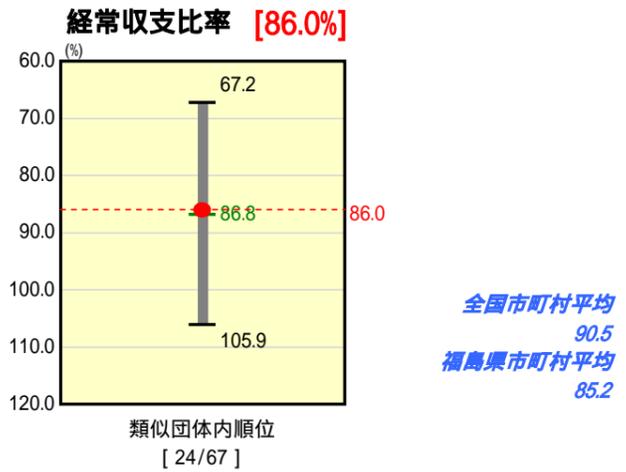
財政力



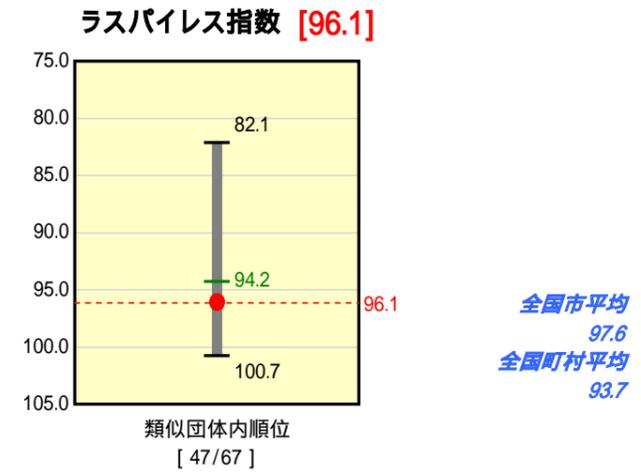
将来負担の健全度



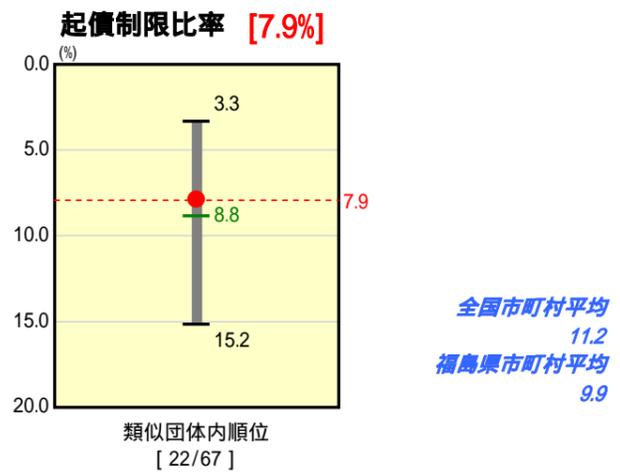
財政構造の弾力性



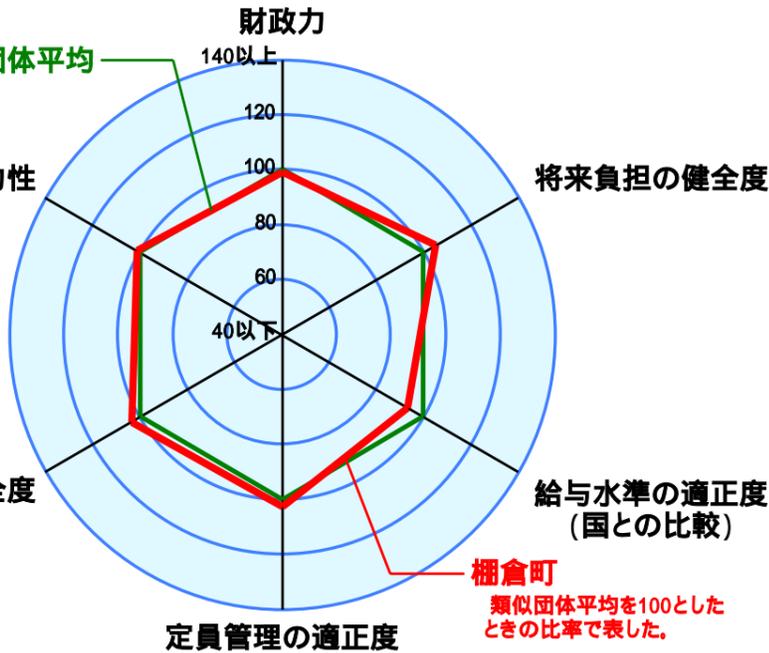
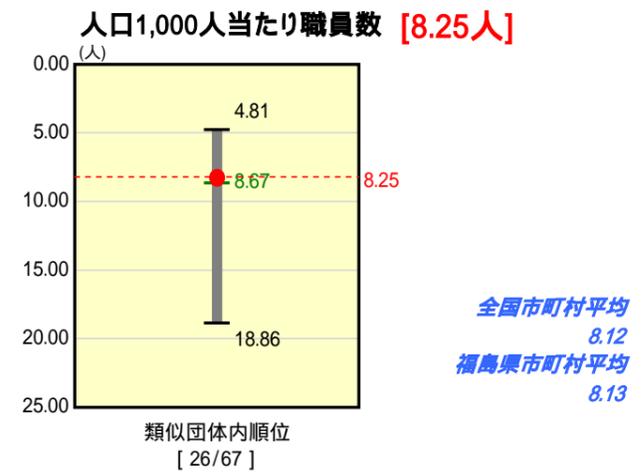
給与水準の適正度(国との比較)



公債費負担の健全度



定員管理の適正度



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

財政力指数：平成16年度では0.52となっており、類似団体平均値とほぼ等しいが、さらに財政基盤の強化を図るため、投資的経費をはじめ、物件費、補助費等、歳出削減に努める。

経常収支比率：歳入において、対前年度比で地方譲与税約32,000千円(41.8%)の増、地方消費税交付金で約17,000千円(10.4%)の増等はあったものの、地方税で約39,000千円(2.1%)減、普通交付税で約180,000千円(11.1%)と大幅な減となったこと、歳出においては、補助費で水資源対策に要する一部事務組合負担金の増により経常一般財源が約100,000千円増、扶助費で児童手当制度改正に伴い同約13,000千円増などが要因となり、類似団体平均は若干下回っているが、前年度比で約5.0ポイント上昇し、86.0と高い水準となっている。今後は、行政改革の推進により、上・下水道料金の見直しをはじめ、住民健診等の個人負担等各種使用料・手数料の受益者負担についての見直しを図りながら歳入の確保に努めるとともに、平成16年度から取り組んでいる人件費の削減(平成16年度から10年間で30名削減等)や事務経費の対前年度比5~10%削減、投資的経費について重点選別主義の徹底を図っていく。

ラスパイレス指数：当町の平均年齢となる43歳以上の職員が全体の約54%を占めている状況で高齢層の偏在しているため、類似団体平均に比べて1.9ポイント高い状況にあるが、給料表の構造を改正するなど、給与水準の適正化に努力する。

起債制限比率：これまでの大事業についても、過度に起債に頼ることなく事業を展開してきたため、10%以下で推移している状況にあり、類似団体平均も下回っている。今後も県の要領による財政健全化計画及び町独自で策定した町振興計画実施計画を踏まえ、事業の抑制や重点選別に取り組み、現在の水準を保っていく。

人口1人あたり地方債現在高：平成2年、6年、7年のルネサンス棚倉、交流研修館、文化センター等の建設に係る借り入れにより一時上昇したものの、それらの償還もほぼ終了し、減少傾向にあり類似団体平均を下回っている。今後は学校施設耐震補強事業等の借り入れを予定しているが、地方債の残高に注意しながら、事業実施するよう努力する。

人口1,000人あたり職員数：総務省通知により平成14年度に策定した定員適正化計画に基づき新規採用抑制等により職員数を管理しており、類似団体平均を下回っている状況である。今後は、行政改革大綱に基づき、平成16年度以降の10年間で約30名の削減を予定している。